

見直しの背景

大鳴門橋自転車道の開通

- ・自転車利用者、観光客の増加が予想
- ・レンタサイクルサービス提供の必要性
- ・通行止めや災害時に取り残される方への対応

展示物の老朽化・陳腐化

- ・開館から40年が経過し、故障中のものがある、内容に統一性がない。
- ・展示の説明も多言語対応できていない。

見直しの方向性

基礎

大鳴門橋架橋の意義や自然・歴史を引き続き後世に伝える

機能追加

- サイクリスト・観光客にとって
 - ・鳴門公園をはじめ、徳島県を楽しめる場
 - ・快適に過ごせる場
 - ・安全・安心な場

見直しの具体的な内容

サイクルステーションの機能強化

現在、1階に整備中のサイクルステーションに加え、サイクリストや観光客の方々が鳴門公園周辺でサイクリングを楽しむために必要な機能を強化する。

○サイクルステーション

サイクリストの休憩スペース、駐輪場、情報発信

○「レンタサイクル」サービスを提供するために必要なスペースの確保

※1階をメインとして、来館者に対応可能な台数の保管、メンテナンスを実施できるスペース、更衣室、受付（荷物預かり）対応等

○憩いスペースの創出

サイクリストを含め、来館者が飲食や、家族や友人等と安心して過ごすことができるスペースの創出（防災の視点を含む）

情報発信の強化・魅力向上

○情報発信の強化

サイクリストや観光客の方々が、徳島の観光を楽しむことができる、また徳島に来たくなるよう、情報発信を強化する。

・サイクリスト視点

周遊ルートの情報、渡船の時刻表、休憩場所になる地点、入浴施設、県内の他のサイクリングコース、カップリングルメ 等

・観光客視点

県内各地の観光情報の発信（地図表示）、グルメ（徳島ラーメンなど）、阿波踊り 等

○魅力向上

- ・ユニバーサルデザインの視点を踏まえた施設利用の推進（多言語対応、障がい者対応 等）
- ・屋上展望の活用
- ・映えスポットの創出

展示の見直し

○既存展示内容の見直し

・個別の展示について、施設目的を達成するためには効果的な展示か、費用対効果についても考慮の上、見直しを行う。

○展示手法の見直し

- ・施設のスペースが不足する場合や、展示方法が効果的ではない等の場合は、現在の展示手法を見直し、より効果的・効率的な手法により展示を行う。
- ・渦潮の体系的な学習を行うことも可能となるような手法についても検討する。

この基本方針を基に、EDDY改修の設計・工事を行うための、具体的なレイアウトやイメージパースの作成等を進める（EDDY版基本計画）。